信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	**農業・食糧分野における国際協力で活躍出来るグローバル人材の育成**	
学部・研究科名	農学部	
プログラム 実施期間	2019年9月9日～9月21日	
研修先(国・都市・施設名)	ネパール農業省ネパール農業研究評議会	
参加学生数　6名		知の森からの支援者数　2名
プログラム概要	農学部在学中に身につけた専門知識と技術を海外（主に途上国）の現場において、どのように活かすことが出来るのか。今、世界でおこっている農業問題・食糧問題は、どのような農業環境と社会的構造の中で生じているのか。その問題の本質は何なのか。本プログラムは、信州大学農学部と学術交流協定を結んでいるネパール国農業省ネパール農業研究評議会の研究施設（首都カトマンズ標高1350m）と標高2650mのヒマラヤの麓の村マルファを中心に実施する。ネパールという農業生物多様性の宝庫でありながら、脆弱な食糧生産体制のもとに人々が暮らす「開発途上国」において、約2週間の研修先での活動とその経験から、このような問いに対して、自身で考え、学ぶための機会を提供し、将来、国際協力分野で活躍するグローバル人材の育成を目指す。	

実施状況・成果

本ネパール海外農業実習は、今年で7回目を迎えた。参加学生は6名で、2年生4名、3年生2名だった（男子4名、女子2名）。今回の実習では、まず、学術交流協定を結んでいるネパール農業研究評議会の農作物遺伝資源センター（通称ジーンバンク）を訪問し，施設を見学したのち，同施設研究院のGhimire氏にネパールの農業生物多様性と植物遺伝資源の収集状況について講義を受け理解を深め，学生たちと質疑応答・ディスカッションを行った。次に地域間連携協定を結んでいるムスタン郡のマルファ村を訪問した。マルファ村は標高2650mの山岳地帯にある農村で、ソバとオオムギの2毛作を基本とした農業とリンゴを中心とした果樹栽培を行っている。学生たちは、リンゴがジュースやジャム、ブランデーに加工される様子を視察するなど、村の農業について理解を深め、村人と交流した。今回は，連携協定の更新を行い，村人の主だった人たちによるセレモニーのもとMoUのサインを取り交わした。また、マルファ村近隣のコバン村を訪問し、村にあるコバン農業高校を視察し、学校関係者から学校の様子を聞くとともに、そこで学ぶ生徒たちとも交流をした。今回は，標高720mのポカラから3600mのムクチナート近くのジャルコット村までの標高差とそこで行われている農業の違いを観察するとともに，高標高地で栽培されているソバの栽培に関する調査を実施した。カトマンズに戻ってからは、毎年行っている野菜市場やスーパーマーケットで売られている野菜の調査を行ない。日本では見かけない野菜や食べ物についての新たな知見を深め、それらの価格と日本との違いについても学んだ。今回の実習では、標高の異なる地域の農業生態系の違い、すなわちその地域の植生や栽培されている作物の違い、そして食文化やそこに住む民族の違いを実体験を通じて学ぶことができた。また，最終日には，高大連携事業の一環としてSkypeを使って日本の上伊那農業高校とをつないで交流し，学生が実習の様子を伝えた。

学生の声①-農学部　学生

標高800mのポカラから3600mのムクティナートまで標高の違いによって農業が変化していく様子を数日の間に見ることができた。標高差の大きいネパールならではの体験であった。高標高地の赤いソバ畑は非常に美しかった。また、私が注目していた昆虫も、標高や周囲の環境によって観察できる種が変化した。捕まえて観察し、写真や絵で記録した。想像以上に日本の種に似たものが多く見られたことに驚いた。ネパールには昆虫が数多く生息しているが、昆虫図鑑などは本屋に売っておらず、まだあまり研究が進んでいないように感じた。将来ネパールに行って研究してみたい。カトマンズのシードバンクにも伺った。日本の研究機関との違いや、これからの遺伝資源の保全について考えさせられた。

学生の声②-農学部　学生

農業に対する考え方の違いに驚かされた。中でも密植は印象的である。マルファ村では、リンゴなどが日本と比較して密度が高く植えられていた。日本の農業のやり方が正解であるかのようなバイアスのかかった目で観ると愚行のようにも感じられるが、丸かじりに適したサイズ感であり、用途が違うために選択された栽培法であった。このような場面は多々あり、むしろ偏見を持った自分のほうが恥ずべきであると気づかされた。ネパール人はネパール人なりの考え方に基づいて農業を行っている。決して雑草が多く生えていようとも、労力と品質を天秤にかけた結果であり投げやりに行っているわけではない。資材の無い中で石を使ってハウスを組み立てるような工夫をしている場面もあり、過ごしてきた世界の違いを強く感じた。

カトマンズにて上伊那農業高校とSkype交流をしているところ

高標高地(3600m)で栽培されるソバの栽培と利用に関する調査の一コマ